

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

授業担当者

所属/職名：農学部/准教授

氏 名：岡本 繁久

| | |
|---|--|
| 授業科目名 | 国際感覚を持つバイテク人材育成 |
| 研修先（国・地域） 滞在地 | タイ・バンコク モンクット王工科大学トンブリ校・ゲストハウス（ヘリコニアハウ |
| 研修期間 | 2018.02.13 ~ 2018.02.24 |
| <p>〔研修の成果〕</p> <p>今年度は、法文学部2名、工学部1名、農学部5名の計8名の学部生を提携校KMUTTに派遣して短期研修を行った。バイテクに関連する5講義を受講させるとともに、マナ・ラン農園、タイ国立食品研究所、味の素・アユタヤ工場、冷凍食品製造会社、食品市場などを視察した。これらの活動を通じて熱帯・亜熱帯地域における農業や食品産業の問題点や実践的なバイテクとは何かを学ばせることができた。また、味の素社員からは、自社製品をタイ人に認知させ販売するために構築すべき関係性について学んだ。主要活動の一つとしてKMUTT学生（修士）とともに行った問題発見解決型授業（PBL）では、「食品ロスとその対策」をテーマに掲げ、両校の学生がそれぞれの国の問題点を提示し、解決策を話し合い、資料を作成して両校教員に対して結果を披露した。最終的に見事に発表できたことは短期間で彼らが大きく成長したことを物語る。PBLでは修士学生の主導のもと、議論、プレゼン資料作成を作成した。この経験は、今後の学部での勉学を行う上で大きなアドバンテージになったと考えられる。この他、タイの歴史文化、或いは日本との関係性を学ぶため、アユタヤ市内の日本人村と歴史記念公園、バンコク市の寺院（ワット・ポー）やラタナコーシン博物館などを訪れた。これらの訪問・視察を通じてタイ王国の成り立ちや日本との長い交流史を学んだ。加えて、食品市場では買い物を通じてタイの一般的な人々との会話と交流を図った。この場面では、英語という共通言語を使わず意志疎通を図る経験を積ませることができた。短期間とは言え、東京を凌ぐ大都会バンコクに身を置きKMUTT学生をはじめとするタイ人や諸外国の人々とコミュニケーションをとる経験が積めたのは、今後、国際的にまた地域で活躍することを目指す学生にとり貴重な経験になったと考えられる。また、学生海外派遣講義の意義の一つである【国際交流とは何か】という点を改めて考えるよい経験になったと考える。今後、参加学生が国際社会や地域社会で活躍するバイテク人材やビジネス人材になることを強く希求する。</p> | |
| <p>〔今後の課題〕</p> <p>本プログラムは、国際的に活躍でき、且つ地域産業に貢献できる国際感覚を有したバイテク人材の育成を目指して昨年度（H28）より始めた学生海外派遣講義である。今回、参加者はほとんどが低学年次の学生であったため、基礎知識や語学力が伴わず、活動内容の理解は消化不良になったと考えられる。来年度は高学年次の学生の参加を促す予定である。今回は、本学学生の英語会話力不足を痛感した。海外学生派遣講義に参加を希望する者には外部英語試験を課す必要があるかも知れない。加えて、本学の留学生との交流機会を増やすなどして、外国人に対するアレルギーを払拭させる活動も必要と感じた。</p> | |